

誘惑に打ち勝つ

(マタイ4・1〜10)

一、だれに語られているか

マタイの福音書が底本にしたと考えられるマルコの福音書の並行箇所には、マタイが語る三つの誘惑について書かれています。なぜマタイは、荒野において主イエスが悪魔の誘惑、及び悪魔の試みに遭われたことを記したのでしようか。それは、マタイが所属していた教会で、どうしても必要とされるメッセージだったからと考えるのが順当です。当時キリスト教会は信仰の試練に遭っていたと推測することができま(↓参照として、マルコ16・9〜20)。

それを知った上でマタイの福音書を読みますと、福音書発行時の背景にあるのは、教会が試みに遭っている姿であり、教会が倒れてしまうのではないかと危惧している姿です。こういう状況の中で、主イエスが聖霊によって語っておられると受け止めますと、リアリティを持った神の言葉として迫ってまいります。

二、第一の誘惑

3節に、〈すると、試みる者が近づいて来て言った。〉とあります。〈試みる者〉とは「悪魔」であり「サタン」ですが、最初から「悪魔」と書かれていないと

ろに、意味があると思われま。『悪魔』、別名で「サタン」は、「試みる者」として(「誘惑する者」とも訳せる言葉ですが)、人となられた神の子イエスに近づいて来ました。そして語りました。3節の続きです。〈あなたが神の子なら、これらの石がパンになるように命じなさい。〉と。このような試みⅡ誘惑を受けられたからには、主イエスには石をパンに変えることもできたのでありま

よう。何せ、水をぶどう酒に変え、ガラヤ湖の水の上を歩くこともなさったからです。では、なぜこのような試みⅡ誘惑を受けられたのでしょうか。四十日四十夜、断食をし、御自身が空腹になられたからでしょうか。浅はかな受け止め方です。自分自身のために、石をパンに変えようか、という誘惑を受けられたのではありませ。主イエスは当時の人々の困窮した状況をご存じでした。ゆえに「試みる者」は、人々のニーズを満たし、幸福感を味わってもらうことが救いではないかと、主イエスに迫りました。しかし神の子イエスは聖書が語る真理に立ち、次のように語られました。4節です。〈イエスは答えられた。『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことで生きる』と書いてある。〉と。元になっている申命記の言葉を見ますと、本来語られたことの意味が覚えてまいります。それは〈申命記8・3bそれは、人は

パンだけで生きるのではなく、人は主の御口から出るすべてのことばで生きる(略)です。

三、第二の誘惑

5節に、〈すると悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、〉とあります。ここに「悪魔」という言葉が登場します。「試みる者」として近づいてきた存在者が、「悪魔」と語られていることにご注意ください。悪魔は主イエスを聖なる都エルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて言いました。6節です。〈こう言った。『あなたが神の子なら、下に身を投げなさい。』神はあなたのために御使いたちに命じられる。彼らはその両手にあなたをのせ、あなたの足が石に打ち当たらないようにする。』と書いてあるから。〉と。悪魔が引用した聖句である「神はあなたのために御使いたちに命じられる。彼らはその両手にあなたをのせ、あなたの足が石に打ち当たらないようにする。』は、詩篇91篇からの引用で、多くのキリスト者が好む聖句です。ですが、「ここにいいことが書いてある」式に聖書を読んでいきますと、悪魔の誘惑に載せられてしまう結果になります。主イエスは御言葉を引いて語られました。7節です。〈イエスは言われた。『あなたの神である主を試みてはならない』とも書いてある。〉と。

8節をご覧ください。〈悪魔はまた、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての王国とその栄華を見せて、〉とあります。主イエスは「試みる者」を、第二の誘惑以来「悪魔」として特定しておられます。悪魔は主イエスに語りました。9節です。〈こう言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう。〉と。これは、有能な人が受ける誘惑かと思えます。多くの点で、人よりも能力の高い方がいます。そういう方が周りの人を見ると、鈍くさく見えてしまうのかもしれない。「私がやればもっとうまくできる。どうして、人は私のところに相談に来ないのか。どうして、私をさて置くのか」と。そういう、能力のある方が――

四、第三の誘惑

――受ける誘惑が、第三の誘惑なのではないかと思われま。ひと度、高慢の誘惑にさらされると、神を礼拝するために時間と財を献げるのが馬鹿らしく見えてくるのかもしれない。「私は忙しいのです。世の人々が私を必要としているのです。礼拝どころではありませ」と。ですが、主イエスはおっしゃいました。10節です。〈そこでイエスは言われた。「下がれ、サタン。『あなたの神である主を礼拝しなさい。主のみ仕えなさい』と書いてある。〉と。